

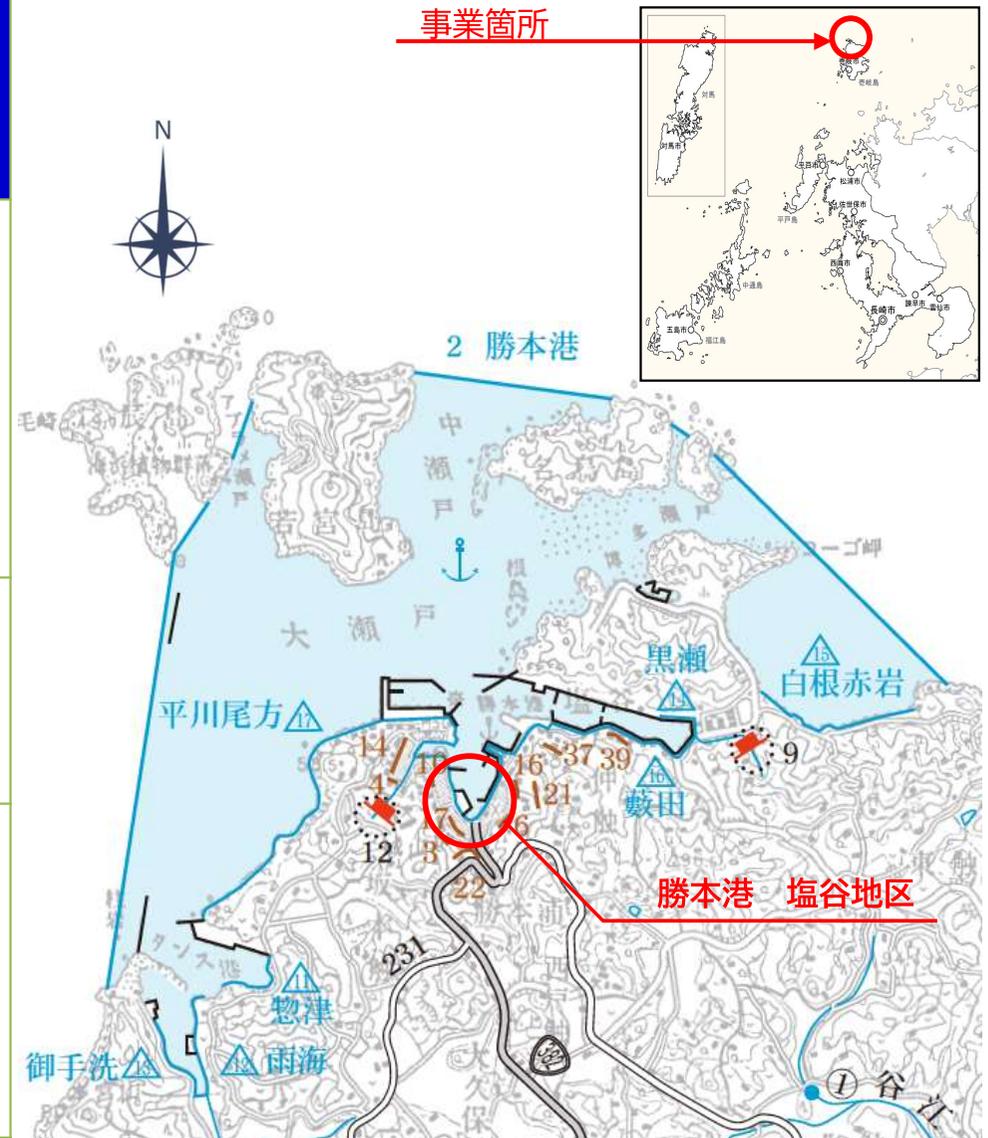
令和7年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

港湾-2 港湾改修事業
勝本港

事業主体 長崎県

再評価の理由 再評価後変更(事業費・工期)



1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (R1新規)		R1	R6	9.0	2.07	【工事概要】 物揚場(-3.0m)(A) L= 60m 物揚場(-3.0m)(B) L= 50m 浮棧橋 N= 1基 道路(改良) L=250m
第1回審議 (R5)	事業採択後 5年経過	R1	R9	15.8	1.25	【当初評価からの変更概要】 ・地盤改良の追加による事業費増額 および工期延長
第2回審議 (R7)	再評価後変更 (事業費・工期)	R1	R12	20.0	1.13	【前回評価からの変更概要】 ・仮設工の見直しによる事業費増額 及び背後埋立事業との調整に伴う 工期延長

2. 目的・事業概要・これまでの経緯

◆目的

勝本港の既設物揚場は荷揚げスペースが狭いため利便性が低く、その背後の臨港道路は歩道がなく危険な状況である。このため、物揚場と臨港道路の再編整備により、利便性・安全性の向上を図る。

また、現在の港内観光船乗場は観光資源である朝市等と離れているため、これらに近い上記物揚場付近に観光船用浮棧橋を新設し、壱岐島北部の観光拠点として整備することで、地域観光産業の活性化を図る。

◆事業概要

物揚場(-3.0m)(A)	L=132m
物揚場(-3.0m)(B)	L= 89m
浮棧橋	N= 1基
道路(改良)	L=250m

◆事業経過

令和元年度	測量・調査・設計着手
令和2年度	本工事着手
令和5年度	5年後再評価
令和7年度	再評価後変更

3



3. 事業の効果・必要性

【物揚場（-3.0m）（A）・（B）】
現状では作業スペースが狭小、かつ潮位差に対応できていないため、物揚場および浮体式係船岸の整備による作業時の安全性や利便性向上が必要である。

【道路（改良）】
地域の生活道路で代替路がない重要な道路であるが、車道幅員が十分でなく歩道がないため、道路幅員の確保・歩道の整備による安全性向上が必要である。



既存物揚場における漁船の接岸状況

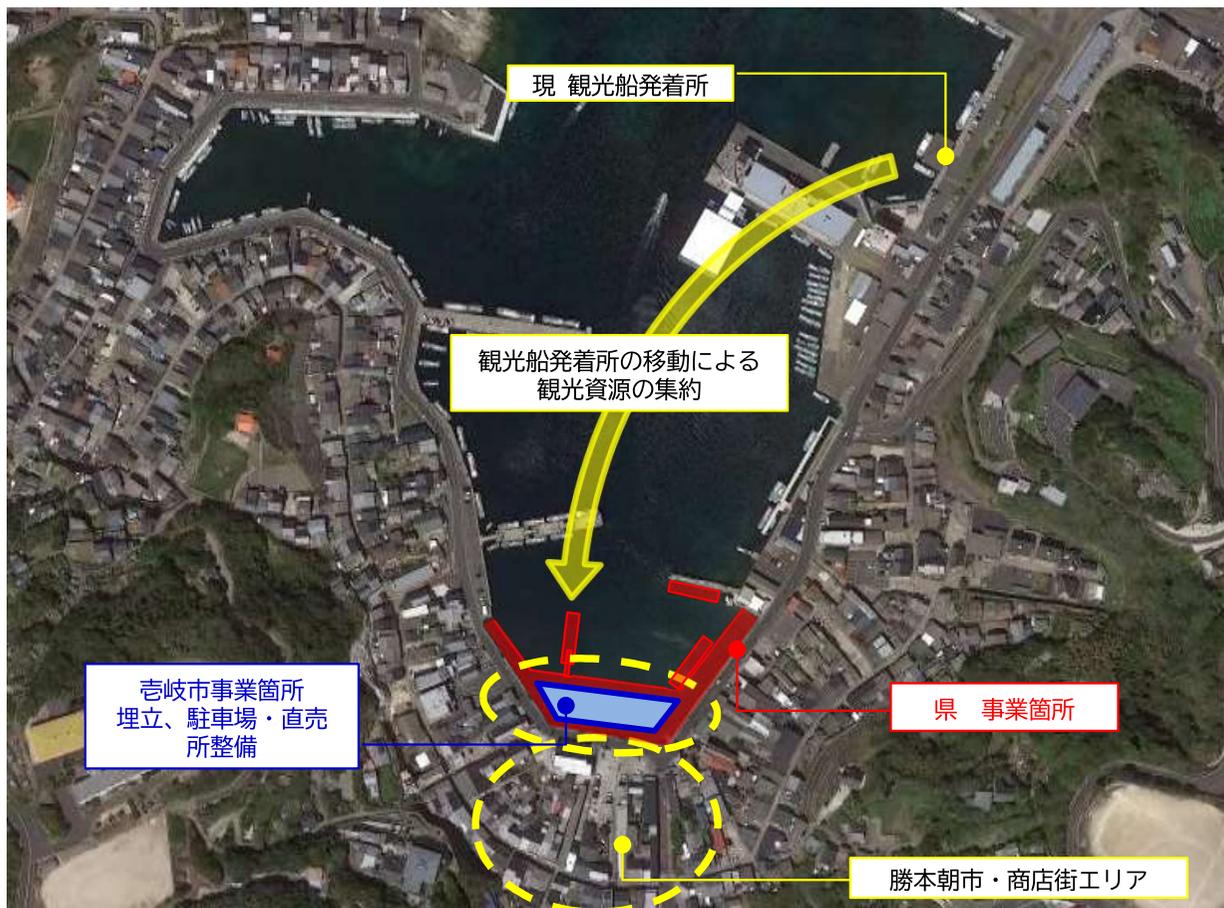


路線バスと歩行者（地域住民・観光客）の錯そう状況

3. 事業の効果・必要性

【浮棧橋】

- ・ 観光遊覧船の利用者数は増加傾向にあるが、主要な観光資源である朝市・商店街エリアから離れており、十分な効果を発揮できていない。
- ・ 遊覧船発着所としての浮棧橋を朝市・商店街に近接した場所に整備することで、観光資源を集約し、壱岐市が行う埋立・駐車場・直売所整備との連携により、地元観光産業の活性化を目指す。

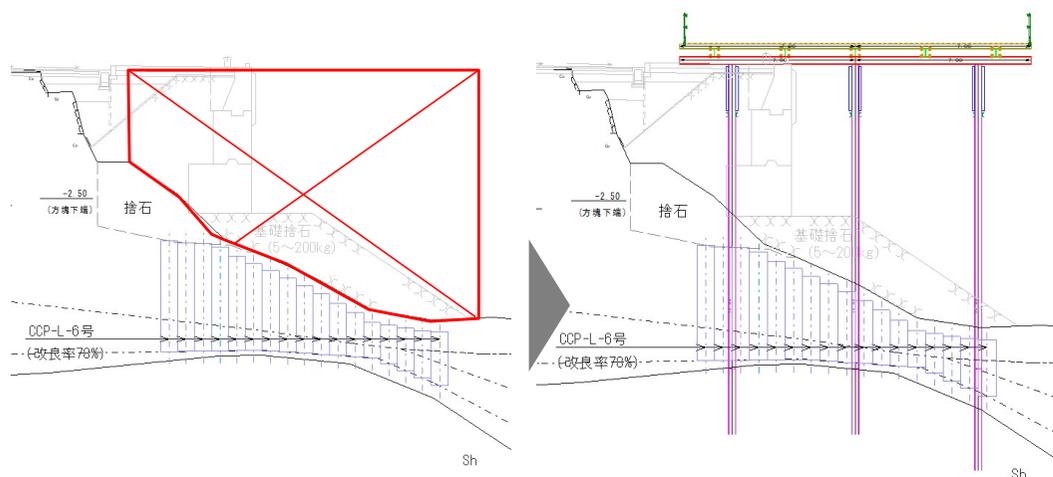


4. 事業の進捗状況（事業費の見直し）

◆事業費の見直し 15.8 億円（前回） ⇒ 20.0 億円（今回）

施設名	事業費増の内容	増額	主な増額理由
物揚場 (A) 物揚場 (B)	①仮設工の見直し	約1.2億円	海上地盤改良について、当初、標準的に使用する単管足場で施工予定であったが、現地着手後の精査の結果、海底面の不陸が著しく、足場の安定が確保できなかったため、H鋼打込みによる足場に変更した。
全施設	②労務・資材価格の上昇	約3.0億円	生コン、捨石等の資材単価や労務単価等の上昇により増額となった。
	計	約4.2億円	

①仮設工の見直し



当初：単管足場

変更：H鋼足場

②労務・資材単価の上昇

	令和5年度 (前回)	令和7年度 (今回)	
捨石 (5~200kg)	6,900円/m ³	7,900円/m ³	約15%増
コンクリート	27,500円/m ³	30,600円/m ³	約10%増
特殊作業員	21,700円/人	24,600円/人	約15%増
土木一般世話役	24,500円/人	28,300円/人	約15%増
普通船員	18,700円/人	20,800円/人	約10%増

4. 事業の進捗状況（事業期間の見直し）

◆事業期間の見直し

【完了時期】 R9（前回） ⇒ R12（今回）

【前回】

総事業費:15.8億円	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
測量・調査・設計									
工事									

【今回】

変更理由：背後埋立工事（市事業）との調整

（海上からの土砂投入への変更、水路等施工調整・背後地利活用の検討等）

総事業費:20.0億円	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
測量・調査・設計												
工事												

背後埋立工事との調整

5. 事業の投資効果

◆ 費用対効果 (B/C)

項目	前回評価 (令和5年度)	今回評価 (令和7年度)
残事業	3.09 = 18.9億円 / 8.2億円	2.08 = 23.5億円 / 11.3億円
全事業	1.25 = 18.9億円 / 15.1億円	1.13 = 23.5億円 / 20.9億円

[費用]

- ・物揚場整備、道路改良、浮棧橋整備に要する工事費、維持管理に要する費用

[便益]

- ・観光消費額の増加、漁業者の軽労化

[マイナス要因]

- ・事業費の増（浮棧橋の係留杭長の見直し・簡易浮棧橋の追加）
- ・工期の延長（事業費の増による延伸）

◆ B/Cでは計測できない効果

- ・地域住民および観光客の安心度の向上
- ・観光資源集約による観光業への相乗効果（消費額の増など）

6. 対応方針（原案）

- ◆ 物揚場、臨港道路、および浮棧橋の整備により、漁業活動の効率化、地域住民の安全性向上、観光関連産業の活性化に資する事業である。
- ◆ 事業進捗率は事業費ベースで42%[8.4億円/20.0億円](令和6年度末)となっている。
- ◆ 当事業は勝本地区の住民および漁業者、壱岐島内観光業者の生活に資する事業であり壱岐市および勝本町漁協より早期完成が望まれている。また、背後の埋立については壱岐市が施工を行うこととしており、整備に積極的である。
- ◆ 可能な限りコスト縮減を図ってきており、事業効率化に大きく寄与する新たなコスト縮減は見込めず、また、代替案の可能性がない。
- ◆ 事業費の増・事業期間の延長はあるものの、費用対効果が十分に見込まれる。

